

魅力ある病院図書室 をめざして

島根県立中央病院 図書室
高橋 眞由美

日ごろ考えていること・・・

今の図書室は
使いやすいんだ
ろうか・・・

医中誌webや
J-Dreamが
使いこなせて
ないなあ・・・

やりたいことは
いろいろあるけど
時間がない・・・

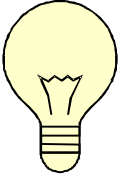


病院図書室担当者

- ① 他業務との兼任の担当が多く、図書業務に十分な時間をかけることができない
- ② 他機関との交流や研修の機会が少なく基礎的な図書業務についても学ぶことができない場合がある
- ③ ①、②の結果、スキルアップの機会、手段時間が限られている

— 問題を整理するために —

<方法>

- 図書室の現状分析をする
- 他館の様子を知り比較検討する
---どんな小さなことでも
とてもいい**ヒント**になる！ 

他館の様子を知るために 研修会等に積極的に参加する

「日本医学図書館協会 (JMLA)
基礎研修会」(8月1～3日 於:岡山大学)
で、様々な館種の担当者が集い、日ごろ
問題・疑問に思っていることを話し合
いました。

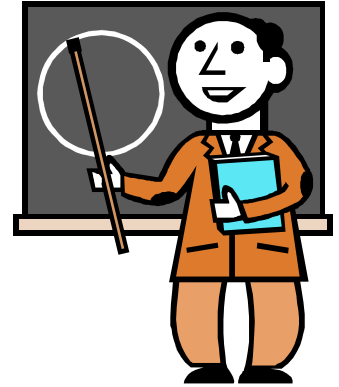


研修会のテーマ:

「学術情報のマネジメント力を
身につける」

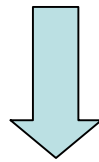
講義の内容

- 図書
- 相互貸借
- 接遇
- 雑誌
- 学術情報リテラシー教育
- 患者サービス



グループ別討議課題より

- 1 資料構築
- 2 サービス
- 3 情報リテラシー
- 4 その他



それぞれの項目について現状と
問題点を洗い出す

1 資料構築

現状・問題点

- ・限られたスペースにいかに多様な要望に応じた蔵書を確保していくか
- ・価格が高騰する一方のジャーナルをどのようにコレクションしていくか
- ・電子ジャーナルと冊子体のジャーナルをどのように共存させていくか（価格面、**使い勝手**）
- ・図書館の選書の方法、基準はどのようにするか

2 サービス(レファレンス、相互貸借)

現状・問題点

- 利用者が求める情報を的確に把握し提供するためのスキルの習得が充分でない
- 利用者が求める情報を提供するにあたって変化する医学情報にどのように対応するか
- 館種が違う図書館の連携が整備されていない (公共図書館、大学図書館、病院図書室)

3 情報リテラシー（利用教育、情報検索）

現状・問題点

- 利用者を図書館に惹きつけられるようなオリエンテーション、利用案内が不十分である
- 利用者が的確な、また満足度の高い情報検索が行えるための利用教育のありかたを検討している
- 利用者が求める情報をいかに効率的に集め選び出すか、担当者としてのスキルに自信がない

「情報リテラシー」とは・・・

必要な情報を収集し

活用できる能力

○情報源となるツール

印刷物、視聴覚資料、コンピュータ&
インターネット など

「情報リテラシー教育」とは

学習、研究のために、学術情報を入手する方法を理解し十分に活用できるスキルを利用者に身につけさせること。

4 その他

現状・問題点

- ・図書室の利用促進と便宜を図るためにはどのような方法が有効か？
- ・病院図書室担当として基礎的な医学的知識(医学・薬学)をどのようにして身につけたらよいか？

利用者が使いたいと思う図書室とは

- 欲しい資料が手に入る
- 情報が得られる(レファレンス含む)
- 機器が整備されている(パソコン、コピー機)
- インターネットが使える(一般の検索、文献検索ができる)
- 落ち着いて学習に取り組める環境がある
- 頼りになる担当者がいる

図書室をもっと身近な存在にして
潜在的な利用者を増やしたいが・・・

現状は・・・

利用者が限られている



なぜ 利用者が増えないのか

利用者の立場から・・・

- 資料が少ない
- 図書室で何が出来て、何を入手できるのか
知らない
- 文献検索ソフトを使えない
- 医学関係の図書、雑誌が中心であるため
事務系職員は用がないと考えている

なぜ利用者が増えないのか

図書担当の立場から・・・

- 利用者に対するオリエンテーション、利用指導の機会が少ない
- 図書室のPRをしていない
- 図書予算が限られているため十分な資料を揃えることが出来ない
- 担当者の知識の不足
- 図書の配架方法などの工夫が足りない
- サービス向上するほどの時間的余裕が無い

利用したい図書室にするために

A 所蔵資料の充実

- ・予算の確保
- ・有効な蔵書構築(選書の方法)
- ・冊子体と電子ジャーナルの有効な選択
- ・寄贈資料の有効利用

利用したい図書室にするために

B 広報、研修活動の充実

- 図書室たより等による図書室のPR
(紙媒体、院内メール、HP等)
- オリエンテーション、情報リテラシー教育(図書室や資料の利用方法、検索実技指導)

利用したい図書室にするために

C 担当者のスキルの向上

- ・レファレンス技術
- ・検索技術（文献検索DB、他の検索エンジン、図書関係HPの有効利用）

* 医図懇ホームページ
各種研究会ホームページ

D 相互貸借サービス

迅速な文献の手配

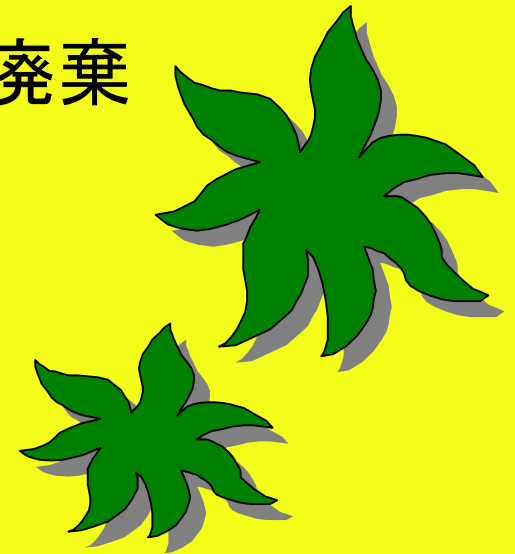
利用したい図書室にするために

E 環境を整備する

- ・室内のレイアウトの工夫
- ・整理整頓 — 不要な資料の廃棄

F 接遇の向上

コミュニケーションの技術
マナーアップ



もうひとつの 図書室の役割

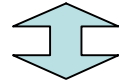
◎現場を離れて
ひと息つける場所

癒しの場が
欲しい…



ネットワーク加入・異館種の連携

各館の専門性・得意分野について情報を提供



自館に無いノウハウを吸収して

業務の参考にする

当院が加入している図書館ネットワーク

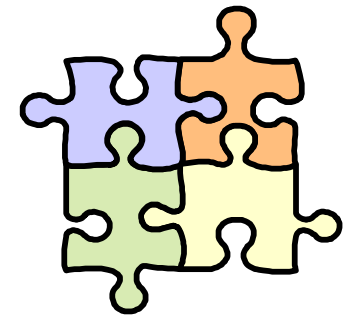
いとこん(島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会)

中四九ネット(中四国九州病院図書室ネットワーク)

近畿病院図書室協議会

日本医学図書館協会(JMLA)

日本病院ライブラリー協会



情報 + コミュニケーション → エネルギー



研修会における学習や他館の図書室担当者との
コミュニケーションは、自分のやる気を高めてくれます

ネットワークの皆さんと情報交換をしまして
お互いにいい仕事をしていきましょう。

ご清聴ありがとうございました

島根県立中央病院 図書室

高橋 眞由美

2007年9月11日(火)